

# ポルトガル月報

2021年5月

(本月報は月末現在の報道などの公開情報を大使館で取りまとめたものです)

在ポルトガル日本国大使館

## 【主要ニュース】

【内政】 ★災害事態宣言の発令及び制限措置の緩和／★5月5日ポルトガル語の日

【外交】 ★ポルトでEU首脳会合が開催／★レベロ・デ・ソウザ大統領、カーボベルデとギニアビサウを訪問

【経済】 ★貿易統計の発表、輸出が増加傾向／★消費者物価指数の発表、物価が上昇傾向

## 内政

### ★災害事態宣言の発令及び段階的制限措置の緩和

5月1日、これまで大統領令に基づき発令されていた「非常事態宣言」が終了し、新たに市民保護法に基づく「災害事態宣言」が発令された。同宣言は16日の閣議で30日まで延長され、27日には、6月13日までの延長が決定した。感染者数及び死者数の減少に伴い、国内各地における段階的制限措置の緩和が進んでいる。他方、これらの緩和措置は、人口あたりの感染者数が解除の基準となり、人口当たり感染者数が多い地域では制限措置が維持される。また、一人の感染者が何人に再感染させるかを示す実効再生産数(1.0を超えると拡大傾向となる)が、全国で1.0を超えており、ヴィエイラ・ダ・シルヴァ閣議大臣は「感染が増加に転じるリスクを直視すべきであり、より一層の慎重な振る舞い、地域的にメリハリのある感染検査の強化等、必要な措置を取らなければならない」と注意を喚起した。

### ★レベロ・デ・ソウザ大統領、世界ポルトガル語の日の祝うスピーチ

5月5日、国連教育科学文化機関(UNESCO)が定めた世界ポルトガル語の日を迎えた。レベロ・デ・ソウザ大統領は、同記念日を迎えたことを受け、「我々がポルトガル語を話す際、何故誇りを感じ、特別な喜びを感じるのだろうか。それは話者数と多様性故である。我々の言葉は、2億6,000万人もの人々によって共有されている。ポルトガル語は、公用語及び母語として、

様々な国の人々により、書き、話し、働き、そして疑問や感情、苦悩を表現するために毎日利用されている。ポルトガル語は常に連帯、友情、愛情、議論の表現を与える言葉である。様々な訛りや現表の多様性は同じ価値を有している。」とポルトガル語の多様性を評価し、記念日を祝った。

### ●アソーレス諸島でアトランティック・センターの竣工式を実施

5月14日、アソーレス諸島のテルセイラ島で、アトランティック・センターの竣工式が行われた。同センターはポルトガル政府のイニシアティブの下、16か国が参加する大西洋の防衛能力構築等を目的とした多国間の組織を横断する研究拠点となる。竣工式にはクラヴィーニョ国防大臣が参加し、同大臣は「本センターの開設は最初にアゼレド・ロペス・ポルトガル前国防大臣によって提案され、他の参加国より、非常に積極的に、かつ即座に、深い満足をもって受け止められた。本日、我々は歴史上初めての、大西洋諸国を結びつける先駆的センターの開設を祝している。我々が本センターを通じて提案するのは、大西洋の平和と安定を支援する新しい視点とフロントラインであり、多くの国々にとっても非常に重要なものである。本センターを通じて、これまで行われていなかった全ての大西洋諸国間の政治的対話が可能となるのみならず、大学、研究機関、各国軍間の知見の共有や能力開発及び訓練が行われる。」と同センターの設置意義を述べた。同センターは、①シンクタンクと

しての機能、②政治的対話の為のプラットフォーム、③防衛能力開発の3つの分野での運用が期待される。

### ●インテルカンパス社の世論調査結果—5月

5月17日、ジョルナル・デ・ネゴシオス紙は、インテルカンパス社が実施した世論調査結果を発表した。新型コロナウイルス感染症への対応が続く中、与党・社会党（PS）の支持率は37.9%（前月比1.7ポイント増）に増加し、最大野党・社会民主党（PSD）の支持率は21.7%（同1.6ポイント減）と先月から減少した。PSとPSDの支持率の差は16.2ポイント（前月比3.3ポイント増）に増加した。その他主要政党では、シェーガ党（CH）と左翼連合（BE）及びリベラル主導等の支持率が減少し、統一民主連合（CDU）及び自由党（Livre）の支持率が増加した。同社による最近の政党別支持率は以下のとおり。

【ポルトガル国内政党支持率推移】

| 政党    | 12月  | 1月   | 2月   | 3月   | 4月   | 5月   |
|-------|------|------|------|------|------|------|
| PS    | 38.0 | 38.0 | 37.6 | 37.6 | 36.2 | 37.9 |
| PSD   | 23.6 | 24.1 | 24.7 | 23.6 | 23.3 | 21.7 |
| CH    | 7.7  | 9.1  | 7.3  | 9.0  | 9.4  | 8.3  |
| BE    | 7.3  | 9.1  | 8.2  | 8.3  | 9.4  | 8.3  |
| CDU   | 5.4  | 5.7  | 5.8  | 5.5  | 5.2  | 5.5  |
| PAN   | 3.4  | 3.6  | 3.1  | 2.5  | 4.8  | 4.8  |
| IL    | 4.5  | 3.8  | 5.6  | 5.3  | 5.0  | 4.2  |
| CDS   | 3.2  | 2.3  | 2.7  | 2.3  | 3.1  | 2.9  |
| Livre | 0.9  | 0.2  | 0.7  | 0.7  | 0.4  | 1.3  |

■調査期間：5月5～11日、対象者：ポルトガル本土居住の18歳以上の有権者610人、調査方式：固定及び携帯電話番号を無作為に抽出、統計上の誤差：4.0%

■PS＝社会党、PSD＝社会民主党、BE＝左翼連合、CH＝シェーガ党、CDU＝統一民主連合（ポルトガル共産党（PCP）・緑の党（PEV）、PAN＝人と動物と自然の党、IL＝リベラル主導党、CDS＝民衆党、Livre＝自由党

## 外交

### ●カーボベルデへの医療支援を実施

5月4日から11日、政府は国立緊急医療研究所の医療チームをカーボベルデへ派遣した。同医療チームは医療担当者及びロジスティクス担当者から構成されており、同派遣はカーボベルデ政府からの要請に基づき、コロナ禍でカーボベルデが抱える医療上の課題を抽出することを目的としている。同支援による結果を踏まえ、ポルトガル政府は更なる医療支援を提供する見込み。また、14日にはポルトガルが提供したアストラゼネカ製ワクチン2万4,000本及び予防接種関連器具が到着した。

### ★ポルトでEU首脳会合が開催

5月7日及び8日、ポルトで一連のEU首脳会合が開催された。7日にはEUソーシャルサミット・ハイレベル会議が開催され、8日には非公式欧州理事会及びEU・インド首脳協議が開催された。今般首脳会合はEU議長国であるポルトガルのイニシアティブにより、欧州理事会議長、欧州委員長、欧州外交安全保障政策上級代表及び加盟国全首脳が出席する初の拡大会議となった。コスタ首相は8日の会見で「ポルト宣言により、社会権及び繁栄に関する明確な確認ができ、これらはグリーン及びデジタル移行に不可欠である他、社会対話の重要性、ソーシャル・ピラーの実施の継続に断固たる決意を確認できた。欧州理事会は社会不平等、差別の減少にコミットした他、特に若者（ユース）政策へ焦点を当てた。若者が雇用へのアクセスを持つことが重要である。具体的な目標を手にした今、ソーシャル・ピラーがあらゆるEU政策の核となり、EU機関の間で連携できるよう望む。」と一連の会議を評価した。

### ●レベロ・デ・ソウザ大統領及びコスタ首相、アルゼンチン大統領と会談

5月9日レベロ・デ・ソウザ大統領は、ポルトガルを訪問したアルゼンチンのアルベルト・フェルナンデス大統領と会談を行い、10日にはアントニオ・コスタ首相がフェルナンデス大統領と会談を行った。コスタ首相は

「ポルトガルはアルゼンチンの独立を世界で最初に承認した国であり、アルゼンチンはポルトガルの共和制移行を最初に承認した国である。歴史的関係に留まらず、ポルトガルはEU議長国を務め、アルゼンチンは南米南部共同市場（メルコスール）の議長国を務めており、両国は緊密な関係にある。両国は多岐に亘る分野で、二国間協力の機会があり、また、アフリカ開発等の三国間協力の機会もある。」と両国の良好な関係を強調した。また、両首脳はEU・メルコスールFTAの締結に向け、両国が両共同体の議長国を務める間に、具体的な成果を示す方向で一致した。

### ●モザンビークとの新防衛協定を締結

5月10日、クラヴィーニョ国防大臣及び、モザンビークのネット国防大臣は、ポルトガルのオエイラスで、両国防衛協力協定の期間満了に伴い、2026年までの新たな防衛協力協定を締結した。今般協定では、モザンビーク北部で発生しているテロ攻撃に鑑み、モザンビークの対テロ部隊の訓練が支援項目に明記された。クラヴィーニョ大臣は「ポルトガルとモザンビークは兄弟であり、30年に亘り軍事分野で緊密な協力を重ねてきた。現状の脅威を踏まえ、防衛協定を更新できたことに満足している。」と述べた。

### ●サントス・シルヴァ外相、ガンビア外相と会談

5月13日、サントス・シルヴァ外務大臣はリスボンでガンビアのママドゥ・タンガラ外務大臣と会談を行った。ガンビアの外務大臣によるポルトガルへの公式訪問は、今回が初めてであり、サントス・シルヴァ大臣は、「ガンビアの外務大臣による初めてのポルトガル訪問は二国間関係進展のための一歩である。我々の関係はこれまで希薄であったが、今後拡大の余地がある経済関係を中心により良いものにしていく必要がある。」とタンガラ大臣の訪問を歓迎した。タンガラ大臣は、「若年層の存在無くしてガンビアの成長はない。今般多くの若者が欧州を目指し、地中海を渡る過程で命を落としている。この悲劇を避けるため、開発プロジェクト等は正しい方向を向き、共同で実施する必要がある。」と今後の経済

協力関係の発展に対する期待を述べた。

### ★レベロ・デ・ソウザ大統領、カーボベルデ及びギニアビサウを訪問

5月17日、レベロ・デ・ソウザ大統領はカーボベルデを訪問した。カーボベルデでは、フォンセカ大統領と会談を行い、両大統領は感染症対策について議論を交わした。会談後、レベロ・デ・ソウザ大統領は「ポルトガルが支援したワクチン及び医療チームがカーボベルデへと到着した。この二国間協力は良好な二国間関係を表すものであるが、フォンセカ大統領の素晴らしい取り組みによるところが大きい。」とフォンセカ大統領の感染症対策を評価した。

同日レベロ・デ・ソウザ大統領はギニアビサウへ移動し、翌18日にギニアビサウのナビアン大統領らと会談を行った。レベロ・デ・ソウザ大統領は報道陣に対し、「政治とは重要なものであるが、国民は更に重要である。政治は国民が望むから存在し、国民が望む限り存在する。今後、ギニアビサウと共に多岐に亘る分野で協働したい。」と今後の協力可能性について述べた。また、同地滞在中に、ギニアビサウの独立運動を指揮したアミカル・カブラルの墓前へ献花も行った。

### ●コスタ首相、アフリカ経済の資金調達に関するフランス首脳会合に参加

5月18日、コスタ首相はパリへ赴き、「アフリカ経済の資金調達に関するフランス主催首脳会合」に参加した。コスタ首相は、アフリカ各国の債務返済モラトリアムに関し、「今次首脳会議は、新型コロナウイルスによる緊急事態対応だけでなく、アフリカ大陸における構造的発展のために、EU・アフリカ諸国間での新たな協力形態を見出す上で非常に重要である。ポルトガルはすでに、ポルトガル語圏であるカーボベルデ及びサントメ・プリンシペの二か国の債務モラトリアムを承認した。他の国についても検討中である。」とこれまでのポルトガルの役割を強調した。また、コスタ首相は、同会議に参加したアンゴラ、エジプト、チュニジア、モザンビークの各首脳とそれぞれ二国間会談を行い、各国との関係に

ついて議論を交わした。

### ●サントス・シルヴァ外相、ブルガリア及び北マケドニアを訪問

5月21日、サントス・シルヴァ外務大臣は、北マケドニアのEU加盟交渉を進展させるべく、北マケドニアの加盟を反対しているブルガリア及び北マケドニアを訪問した。ブルガリアでは、首都ソフィアでストエフ外務大臣と会談を行った。会見でサントス・シルヴァ外相は「EU拡大に関し、①セルビア及びモンテネグロとの政府間協議の開始、②北マケドニア及びアルバニアとの交渉枠組みの承認、上記2つのプロセスにおいて、ブルガリアの提案、取組み、懸念の聴取は進行中であり、EU議長国であるポルトガルにとって重要である。」と訪問の意義を述べた。また、北マケドニアでは、首都スコピエでペンダロフスキ大統領及びザエフ首相らと会談を行った。会談後、サントス・シルヴァ大臣は「我々は実りのある会談を行い、北マケドニアの立場、理念、関心について理解を深めた。北マケドニア及びアルバニアとの加盟交渉条件の承認及び開始は、ポルトガルのEU議長国任期中に実施したい。」と今後の方針を述べた。

### ●第6回アフガニスタン派遣部隊が帰国

5月24日、アフガニスタンで展開されている、NATOの「確固たる支援ミッション」の終了に伴い、同ミッション参加していた第6回アフガニスタン派遣部隊が帰国し、フィーゴ・マドゥーロ軍事空港で帰国式典が行われた。同式典でクラヴィーニョ国防大臣は、「同ミッション前に展開された国際治安支援部隊への参加も含め、この20年間で、4500人もの兵士がミッションに従事した。アフガニスタンでの活動は9.11テロへの対応の下開始されたが、20年を経た今、アフガニスタンはテロの温床ではなくなり、我々はアフガニスタンを去ることができるようになった。」と同ミッション参加の意義を述べ、帰国した兵士たちを労った。

### ●サントス・シルヴァ外相、ヨルダン外相と会談

5月27日、サントス・シルヴァ外務大臣は、リスボ

ンで、ヨルダンのアイマン・サファディ副首相兼外務・移民大臣と会談を行った。会談では二国間関係及び中東和平について話し合われた。サントス・シルヴァ外相は「中東和平問題に関して、国連、EU、米国、ロシアそれぞれが恒久的平和の構築のための協力体制を再構築する条件が整った。穏健派の声が過激派の声よりも優先され、政治的プロセスが暴力や軍事的対立よりも重視されることが非常に重要である。また、ポルトガル・ヨルダン関係は非常に良好である。特に、我々は平和、持続性、安全、及び全人類の繁栄を支持しており、両国は様々な面で多くの共通点を有している。」と中東和平実現に向けた両国の協力体制を示した。

### ●EU非公式国防相会合の開催

5月28日、リスボンでEU非公式国防相会合が開催された。同会合にはEU加盟各国の国防大臣に加え、アフリカ大陸の地域機構代表者も出席した。会合ではEU・アフリカ関係を中心に議論が交わされた。クラヴィーニョ国防大臣は、「アフリカではEUの作戦が多く展開されており、アフリカの責任者たちとの対話が必要であった。そのため、今般非公式会合には、EUの各国国防大臣に加え、アフリカの南部、西、中央の各地域共同体代表者も招待した。モザンビークの治安問題に関しては、EUの軍事ミッション展開の可能性を調査すべく、5月19日から技術チームが派遣されている。」と今後のアフリカ治安問題への支援の可能性に言及した。

### ●サントス・シルヴァ外相、ロシア外相と会談

5月31日、サントス・シルヴァ外務大臣は、モスクワでロシアのラブロフ外務大臣と会談を行い、関係が悪化しているEU・ロシア関係について議論を交わした。会談後、サントス・シルヴァ大臣は「EUは、ロシアが欧州の一部であり、国際社会の一員であるとともに、EUとアジアの仲介役であることを認める必要がある。一方、ロシアも西欧への対話の窓を閉じてはならず、籠城してはならない。冷戦時にも危機回避のための調整は可能であった。」とロシア側に姿勢の軟化を呼び掛けた。

## 経済

### ★3月の貿易統計を発表

5月10日、国立統計院（INE）は3月の貿易取引量の変化に関する数値を発表した。3月は、前年同月と比較し、輸出が28.8%、輸入が12.2%それぞれ増加した。輸出では輸送機器が61%増加し、輸入では工業用調達品が15.1%、機械及び資本財が27.3%増加し、全体の取引量の増加を後押しした。貿易赤字は、前年同月比10億5,500万ユーロ減の10億200万ユーロとなった。また、第1四半期の貿易取引量も公表され、前年同期と比較し、輸出が6.2%増加し、輸入が5.3%減少した。また、2019年同期と比較すると、輸出が3%増加し、輸入が8.4%減少しており、貿易収支が改善傾向にある。

### ●長期国債の入札

5月12日、ポルトガル国庫公債管理庁（IGCP）は、10年物長期国債を5億5,100万ユーロ（平均利回りは0.505%）及び15年物長期国債を6億9,900万ユーロ（平均利回り0.841%）発行した。落札額は10年物長期国債が13億6,000万ユーロ（応札倍率2.47倍）、15年物長期国債が11億7,200万ユーロ（応札倍率1.68倍）となった。

### ●2021年第1四半期の雇用統計の発表

5月12日、国立統計院（INE）は2021年第1四半期の雇用統計を発表した。失業者数は約36万1,000人を記録し、前期と比較し約1万3,000人（3.5%）の減少となったものの、前年同期と比較し、約1万2,000人（3.5%）の増加となった。失業率は7.1%（前期比0.2%減）を記録し、前年同期と比較し0.3%増加した。

### ★3月及び4月の消費者物価指数の発表

5月12日及び5月30日、国立統計院（INE）は4月の消費者物価指数（CPI）確定値及び5月のCPI速報値をそれぞれ発表した。4月のCPIは3月から0.1%増の0.6%となった。インフレの指

標となる食料品及びエネルギーを除いたコアコアCPIは3月から変わらず、0.1%を維持した。一方、5月のCPI速報値は4月の数値と比較し0.6%増の1.2%を記録し、コアコアCPI速報値も4月から0.5%増の0.6%となった。ポルトガルも、景気回復に伴う消費需要の急拡大による世界的なインフレの影響を受ける形となった。

### ●短期国債の入札

5月19日、ポルトガル国庫公債管理庁（IGCP）は、6ヵ月物短期国債を7億5,000万ユーロ（平均利回りは-0.571%）及び1年物短期国債を10億ユーロ（平均利回り-0.536%）発行した。落札額は、6ヵ月短期国債が14億7,300万ユーロ（応札倍率1.96倍）、1年短期国債が17億5,300万ユーロ（応札倍率1.75倍）となった。

### ●4月までの公的債務残高を発表

5月26日、政府は、4月までの政府公的債務残高を発表した。今年4月までの公的債務残高は前年同時期までと比較し、31億4,800万ユーロ増の48億4,500万ユーロとなった。1月から4月まで講じられた感染症対策のための各種制限に伴う経済活動の減退により歳入が6.3%減少し、感染症対策費の支出が6%増加したことが要因となった。支出の中心となる企業及び家計所得に対する臨時支援支出は前月から約7億ユーロ増加し、27億6,100万ユーロに達した。

### ●第1四半期GDPの発表

5月31日、国立統計院（INE）は2021年度第1四半期のGDP成長率を発表した。前年同期と比較し-5.4%を記録し、2020年第4四半期との連結では-6.1%とマイナス成長となった。GDPを構成する内需では、民間消費の減退により、前期の-2.4%から-3.4%と数値が減少した。また、外需においては、前期の-3.7%から-2.2%へと改善の兆しを見せたものの、観光産業の停滞により、依然として低迷した状態が続いている。（了）